

いんぷおみやぎ



令和3年度「家庭の日」絵画・ポスター 優秀作品
 「川でしゅうごう川でかいさんみんなで会えた日」石巻市立前谷地小学校3年 三浦 翔太 さん

CONTENTS

- 2 令和3年度青少年のための宮城県民会議の主な事業
- 3 青少年健全育成応援事業決定団体からの活動報告
- 4 「家庭の日」作品募集審査結果
- 6 研修会の開催
- 8 少年の主張宮城県大会
- 10 青少年健全育成みやぎ県民のつどい
- 12 家庭の日 PR

発行・問い合わせ先 >

青少年のための宮城県民会議 (とらいゆ〜す MIYAGI)

〒980-8570 仙台市青葉区本町3-8-1
 宮城県環境生活部共同参画社会推進課内
 TEL : 022-211-2577 FAX : 022-211-2392
<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/kyosha/>
 E-mail : seisyo9@pref.miyagi.lg.jp

会員を募集しています

青少年の健全な育成を願い、県民の皆様の御協力をいただいております。私たちの活動の趣旨を御理解いただき、ぜひ会員として入会していただきますようお願いします。申し込みは随時受け付けておりますので、事務局まで御連絡ください。

正会員 (年会費)

青少年育成機関・団体
 1口 5,000円 (1口以上)
 企業 1口 10,000円 (1口以上)

賛助会員 (年会費)

個人 1口 3,000円 (1口以上)
 団体 1口 5,000円 (1口以上)
 企業 1口 10,000円 (1口以上)

令和3年度

青少年のための宮城県民会議の主な事業

2年ぶりとなる令和3年度の総会を、5月26日(水)に、エル・パーク仙台・セミナーホールで開催しました。

コロナ禍での開催ということもあり、当日は40名の参加(事前の書面表決提出数82)となりましたが、令和2年度の事業報告・決算、令和3年度の事業計画・予算案、そして令和3・4年度役員案が、原案のとおり可決・承認されました。

また、今年度は役員の変更時期であり、下記の方々が就任しました。



【主な事業】

R3. 4.27	会計監査 第1回役員会
5.26	令和3年度総会 (参加者数40名、エル・パーク仙台)
6. 7	第1回研修委員会
6.15~30	青少年育成推進指導員委嘱状交付式・ 地域研修会(県内4地区会場)
7.5~9.3	「家庭の日」作品募集
7月~9月	少年の主張地区大会(県内12地区)
8. 3	研修大会、第2回研修委員会 (参加者数120名、若柳総合文化センター)
8.27	第3回研修委員会(書面開催)
10. 1	少年の主張宮城県大会 —12地区の代表者14名— (参加者数58名/無観客開催、宮城県庁)
10. 5	「家庭の日」絵画ポスター作品審査会
10. 7	「家庭の日」川柳作品審査会
11.12	青少年健全育成みやぎ県民のつどい (参加者数152名、 仙台銀行ホールイズミティ21)
12. 7	第2回役員会
12.16	第1回常任委員会
12.18	「家庭の日」啓発活動①(志津川自然の家)
12.23	「家庭の日」作品展示(県庁1階ロビー)
R4. ~1.13	
2.20	「家庭の日」啓発活動②(志津川自然の家)
3. 1	第3回役員会
3.15	第2回常任委員会(書面開催)

【令和3年度役員(任期2年)】

役職	氏名	機関・団体名
会長	三浦 文夫	青少年のための栗原市民会議会長
副会長	佐々木伸明	大河原町明日の青少年を育てる会理事
//	森口 能光	宮城県PTA連合会副会長
常任委員	佐藤真紀子	(一社)宮城県子ども会育成連合会長
//	大友 重明	宮城県青少年補導センター連絡協議会長
//	伊藤 吉隆	(社福)宮城県社会福祉協議会副会長兼専務理事
//	野村 清正	宮城県中学校長会副会長
//	小野寺 学	宮城県青年会議所会長
//	佐瀬 充洋	(公社)日本青年会議所東北地区宮城ブロック協議会長
//	後藤 道子	宮城県青少年育成アドバイザー連絡協議会長
//	吉田 邦光	(公社)宮城県防犯協会連合会専務理事
//	鈴木 和信	仙台地区青少年育成市町村民会議協議会長(大衡村)
//	穴戸 宏至	青少年のための大崎市民岩出山会議常務理事
//	齋藤 辰治	石巻市青少年健全育成市民会議会長
//	羽生 進	青少年のための登米市民会議会長
//	生駒 正博	気仙沼市青少年育成協議会長
//	千葉 睦子	宮城県教育庁参事兼義務教育課長
//	武田 健久	宮城県教育庁生涯学習課長
監事	笹木まち子	(公財)宮城県母子福祉連合会副会長
//	古関 博子	宮城県更生保護女性連盟
//	鹿野 裕美	ガールスカウト宮城県連盟長

令和4年3月31日現在

【おじゃまします事業】

各地区または市町村民会議等で開催される青少年健全育成大会や研修会に、テーマに応じた講師を派遣し健全育成運動の啓発や情報の提供を行う事業です。今年度の依頼は次のとおりでした。

青少年のインターネット安全利用講話

- ・塩竈市立第一中学校
- ・塩竈市立第三中学校
- ・宮城県警察沿岸ブロック少年補導・育成センター
- ・宮城県古川黎明中学校
- ・仙台市立八幡小学校
- ・青少年のための大崎市民古川会議



青少年健全育成応援事業決定団体からの活動報告

正会員または正会員に加盟する団体・グループが主催する青少年健全育成のための活動に、経費の一部補助をするもので、今年度は以下の事業に補助しました。

登米市青少年健全育成推進のつどい

青少年のための登米市民会議

青少年健全育成の効果的な推進を図ることを目的に、令和3年11月18日に、登米市津山公民館において「登米市青少年健全育成推進のつどい」を開催しました。コロナ禍での開催という事で、徹底した感染対策の下、少年の主張登米地区大会優秀賞受賞者の発表や、宮城県児童相談所の講師による、「児童虐待の現状と取組」について講演をいただきました。



体験活動を素材に探求対話手法から育成されるSDGs 啓発支援

特定非営利活動法人 LEAF26

松島第二小学校の4年生を対象に、地域を流れる「田中川」で、水質調査や水中生物等の捕獲・調査を行いました。事前準備や、調査結果のまとめ・分析を経ての発表会では、子ども達が直接自然に触れ合った感動だけに止まらず、いろいろな角度から自分たちを取り囲む自然環境に対しての新たな気づきも生まれるなど、子ども達の成長がみられました。



OBSESSION コンサート事業

青少年健全育成松島町民会議

令和3年12月23日に、松島町教育研究会との合同研修会として音楽鑑賞会を実施しました。

ピアノとドラムの本格的な演奏に触れるとともに、吹奏楽部の中学生が直接指導を受ける場面も見られました。参加者からの感想からは芸術鑑賞をきっかけに親子の触れ合いが増えることに繋がっている様子がうかがえました。



「あったか家族の日」啓発事業

青少年のための大崎市民岩出山会議

毎月第3日曜日は、「あったか家族の日」と称して、家庭の温かいふれあいを通じてぬくもりある家庭づくりの推進に取り組んでいます。

令和3年度地域内小中学生を対象に「あったか家族の日」作文・ポスターの作品募集を行い、改めて家族や家庭の役割について、家庭・学校・地域社会が連携し、共通理解を深めることができました。



蔵王町青年会カフェ 「友遊 Youth (ゆうゆうユース)」

蔵王町教育委員会

令和2年度から、青年会が主体となり、子供の見守りと安全な居場所づくりを兼ねた世代間交流のカフェを、蔵王町ふるさと文化会館に開設しています。カフェでは大人も子どもも一緒に楽しめるよう、ボードゲームを多数取りそろえています。

今年度はコロナ禍や地震災害の影響で事業を実施できませんでしたが、スタッフのユニフォームを作り、次年度以降もより和やかな場を提供できるように、取り組みました。



ガールスカウト宮城県連盟指導者研修会

ガールスカウト宮城県連盟

SDGs「ジェンダー平等を実現しよう」について、現状認識と環境の変化が与える影響や現状を変えようと行動した女性を紹介し、自分たちが未来に向けて出来ることを、少女達と共に考え学ぶ体験集会を開催しました。



「家庭の日」作品募集 審査結果

学校の夏休み期間を挟んだ令和3年7月5日（月）から9月3日（金）まで、「家庭の日」作品の募集を行い、絵画・ポスター部門84点（児童の部53点、生徒の部31点）、川柳部門373句（児童・生徒の部303句、一般の部70句）の応募がありました。その中から、入選作品として絵画・ポスター部門20点、川柳部門15句を選出しました。

入選作品は、「家庭の日」への理解を深めるために、令和3年12月23日（木）から令和4年1月13日（木）の期間、県庁ロビーへの展示や各会議の場での紹介、カレンダーや啓発物品等への掲載で、広く活用しています。



優秀作品 (敬称略)

表紙の作品



みんなで花火
大和町立小野小学校5年 及川のわ



川でしゅうごう川でかいさんみんなで会えた日
石巻市立前谷地小学校3年 三浦 翔太



毎月第三日曜日は家庭の日～家族の思い出～
石巻市立青葉中学校2年 阿部 楓愛



笑顔あふれる家庭の日
仙台市立西山中学校3年



優秀作品に選ばれた4人には、11月12日に行われた県民のつどいにて、賞状と記念品が授与されました。

毎月第三日曜日は「家庭の日」

令和4年度もたくさんのご応募をお待ちしております

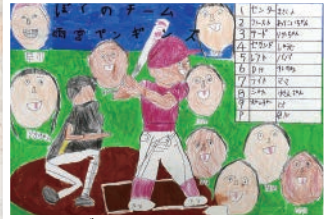
入選作品 (敬称略)

【絵画・ポスター部門】

◆児童の部



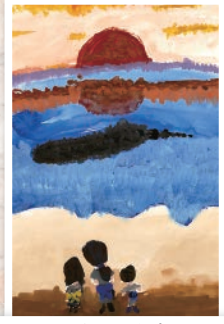
ママとボールあそび
宮城教育大学附属小学校1年 太郎丸 莉杏



ぼくのドリームチーム
宮城教育大学附属小学校1年 長澤 周司



かぞくみんなでおうちぶーる
柴田町立槻木小学校1年 曳地 竜樹



みんなでみた夕日
仙台市立荒井小学校2年 鈴木 和香



たのしいスイカわり
大衡村立大衡小学校2年 大下 麻希



まわる風車とひろがる笑顔
仙台市立七北田小学校4年 長澤 知花



家族といっしょに
お家時間
浦谷町立浦谷第一小学校6年 遠藤 ひより



笑顔は家族の「宝物」
大衡村立大衡小学校6年 高橋 あいら

◆生徒の部



家庭の日～ハイキングの思い出～
石巻市立蛇田中学校1年 山内 慧介



みんなでゲーム
家庭の日
富谷市立東向陽台中学校1年 岡田 玲美



笑顔あふれる家庭の日
浦谷町立浦谷中学校1年 相澤 有愛



家族で散歩
家庭の日
石巻市立蛇田中学校2年 濱田 樹里



みんなで仲良くバーベキュー
美里町立不動堂中学校2年 高橋 りな



笑門来福
家庭の日
石巻市立河北中学校2年 遠藤 すず



家族で過ごそう!!
家庭の日
仙台市立七郷中学校3年 千葉 ひなの



るるろろ(かたつむり)おさんぽパチリ
宮城県立小松島支援学校高1年 鈴木 正広

【川柳部門】

◆児童・生徒の部

母さんが作る料理に金メダル

ホライゾン学園仙台台小学校 4年 嶺岸 歩

みんな笑顔家族そろった誕生日

仙台市立中山小学校 4年 南部 紗耶

コロナ禍でお庭に畑豊作だ

宮城教育大学附属小学校 5年 伊藤 里桜

コロナ禍で家族のきずな密になる

美里町立不動堂中学校 1年 三浦 生吹

「たまにはね」母と一緒に映画館

登米市立米山中学校 2年 後藤 日向

「お帰り」のその一言があったかい

登米市立米山中学校 2年 伊藤 葵

スマホから顔をあげてよママとパパ

美里町立不動堂中学校 3年 宇都宮 愛莉

伝えよう日々の感謝を家庭の日

宮城県中新田高等学校 1年 齋藤 真桜

家族写真たまには入ってよ父さんも

古川学園高等学校 1年 浅野 のぞみ

ばあちゃんの作る夕飯疲れ飛ぶ

古川学園高等学校 1年 小野寺 愛里

◆一般の部

和を保つ家庭円満夢叶う

仙台市青葉区 小野 年子

スマホの手止めて目線を合わせます

仙台市太白区 千葉 友幸

会えぬ子にコミュニケーション絵でがみで

富谷市 加賀 由恵

この味をつなぐ子と孫囲む席

仙台市青葉区 南部 多喜子

父と子の会話は湯船笑顔満つ

富谷市 秋葉 庸子

青少年育成推進指導員委嘱状交付式・地域研修会を開催

令和3・4年度の青少年育成推進指導員を委嘱する「委嘱状交付式」を県内4地区で開催しました。委嘱期間は、令和3年6月1日から令和5年5月31日までで、新任35名を含む181名（交付式時点）の方を委嘱しました。同時に開催した「地域研修会」では、今後の活動に役立てていただくために2つの講話を行いました。



◆会場◆

仙南・仙台南地区	6月15日（火）	大河原合同庁舎	〈39名〉
北部地区	6月18日（金）	大崎合同庁舎	〈40名〉
仙台市・仙台北地区	6月23日（水）	自治会館	〈32名〉
東部地区	6月30日（水）	石巻合同庁舎	〈38名〉

講話Ⅰ 「青少年育成推進指導員の役割」

講師：宮城県共同参画社会推進課 青少年育成班

「青少年育成推進指導員とは」「お願ひしたい活動とは」「青少年を取り巻く環境・現状は」といった内容で、青少年育成推進指導員の役割や活動について説明しました。新任の方には、青少年育成推進指導員の活動を知ってもらい、継続の方にも、これまでの活動を見直す機会にしてもらいました。

●参加者からは、「役割の部分进行深入考える事なく、案内された活動に出来るだけ協力するという形をとってきた事に反省しました。案内を頂かなくても出来る事『ながら見守り』を、これからは積極的にやっていく事を心がけます。役割だからではなく、育ちゆく子ども達のために。」といった声が聞かれました。

講話Ⅱ 「令和2年度 活動報告」

講師：【仙南・仙台南地区】阿部 有子氏（柴田町）・八島 比呂氏（丸森町）
 【北部地区】藤木三和子氏（大崎市鹿島台）・鈴木 太氏（栗原市瀬峰）
 【仙台市・仙台北地区】櫻井 美之氏（仙台市太白区）・安田 浩哉氏（富谷市あけの平）
 【東部地区】坂本 顕一氏（石巻市河北）・佐藤 文則氏（登米市石越）

令和2年度の「活動報告」をもとに、各地区2名の青少年育成推進指導員から、それぞれの地域の実状・課題等をふまえた、日常的・継続的な活動について、具体的に話をしてもらいました。児童生徒の減少・担い手の高齢化等に加え、コロナ禍で活動に制限がある中、各地での工夫を凝らした活動内容は、参加者の志気を高めるものとなりました。

●参加者からは、「同じく活動している方の話だったので、とてもわかりやすかった。自分も出ている研修会や会議もあり、振り返りながら聞くことができた。参加しっぱ

なしではなく、内容や所感をまとめておくことの大切さを実感した。」「とても参考になる活動報告でした。まず何から始めたらよいかわかりませんでした。とても良いヒントをいただきました。」「地域の特色を生かした活動を聞かせて頂き、大変勉強させていただきました。」「お話をきいて、自分のふがいなさに改めて気づかされた。地域に持ち帰って参考にし、早速行動に移してみようと思う。」など、それぞれの講話から強いメッセージを受けた様子が見られました。

アンケートより

－回答者数84／青少年育成推進指導員出席者数101－



	大変参考になった	まあまあ参考になった	あまり参考にならなかった	まったく参考にならない
講話Ⅰ	52	30	2	0
講話Ⅱ	53	28	2	1

（感想）

- 今回のような各地域の良い点、課題等についての実践活動報告を続けてほしい。
- 地域の実状に合わせた行動をとっていきたい。
- 地域研修会と委嘱状交付式を合わせての開催はとても良かったです。今後もこの方向でお願いしたいです。
- 震災の影響、コロナの影響が多分に有り、活動が制限されている昨今です。特に、コロナの収束が早く来てくれるよう願っております。以前の様な活発な

活動にもどれるよう、勉強会にも積極的に参加し、知識を高めたいと思います。

- 町民会議（町内）組織はあるが、連携など感じられない。単独活動のみになっている感じがしている。
- なにか大きすぎる組織になっていて、活動が固定化しているのではと心配しています。
- この指導員の任務を本当の意味で実現したい気持ちです。協働教育、コミュニティスクールの価値に直結するので、教育委員会への周知が重要であると感じました。

研修大会

大会テーマ：『青少年を支え合う魅力ある地域づくり』

期日：令和3年8月3日（火） 場所：栗原市 若柳総合文化センター ドリーム・パル

令和3年度の「研修大会」を、栗原市で開催しました。大会の準備にあたる研修委員会では、事業中止が相次いだ昨年度の経験から、改めて研修の必要性、顔を合わせることの重要性が話し合われました。研修内容については、分科会や情報交換等は行わず、講演のみの2時間とし、時間短縮とソーシャルディスタンスに配慮する内容での実施としました。



講演 「家庭、地域、学校の役割」



講師：宮城学院女子大学・特命教授 竹田 幸正氏
〈プロフィール〉

竹田先生は、現在、宮城学院女子大学教育学部教育学科特命教授として、幼稚園、小学校、中学校、高等学校の先生をめざす学生の指導にあたっているほか、仙台市内小学校の学校評議員などを務めています。

大学では、専門の国語科をはじめ、塩竈市立第一小学校長で退職された学校現場の経験や宮城県教育庁義務教育課長など教育行政の経験を生かした講義で、学生に大変慕われています。

講演では、いじめや不登校、コロナ禍での子ども達の心の変化等を踏まえ、家庭・地域・学校がそれぞれの役割をしっかりと果たすこと、その上で、連携・協力していくことを、豊富な実践例をもとに、大変示唆に富んだお話をいただき、集まった青少年健全育成活動に携わっている方々に向け、力強いエールを送っていただきました。

アンケートより



－回答者数85 / 参加者数120－

	大変参考になった	まあまあ参考になった	あまり参考にならなかった	まったく参考にならない
講演	68	17	0	0

〈感想〉

- 地域、家庭、学校の役割を確認し、相互の連携の大事さを実感しました。“大変な仕事、でなく”大切な仕事、として、青少年のために頑張っていきたいと思いました。
- 今の子どもたちの抱えている問題が多様化していること、子どもたちの心情がよくわかりました。地域ぐるみで子どもを育てるために、子どもたち、親たちへの声かけ、あいさつなど、顔の見える地域づくりをこれからも続けていきたいと改めて思いました。
- 現在の子供たちの状況が数字で示され、知る事ができました。現在の学校の課題もよく知る事ができ、大変さを知り、連携（家庭、学校、地域）の重要性、大切さ、役割を確認しました。小学校の事例、役割の明確化活性化、到達目標などのお話、よかったです。ボランティア活動を通して身についた力、内容（項目）を知ることができ、よかったです。みんなの力

で育てていくことが重要ですね。

- 実例が大変参考になりました。大学の取り組みなど、知らないことも多かったです。活動の可能性が広がったと感じました。
- 家庭、地域、学校の役割、現在の状況について、きちんと分かりやすく説明していただいた。連携・協力するための方策についても、組織づくりの大切さについても、具体的な事例を示しながら、分かりやすく伝えていただいた。学校が主体として導かれる形なので、それぞれが主体として連携できるための活動内容や連携の仕方を考えていかなければならないのではと感じました。
- 本日の演題に沿って、きわめて広い範囲を網羅する内容を、分かりやすく講義され、とてもありがたく思いました。本当ならこの講演に続いて、「分科会」などでより具体的な討議をしたかった。
- 先生の丁寧な語り口、とても聞きやすかったです。大切な事をあらためて考えさせられました。

【令和3年度 研修委員】 〈研修委員長〉 佐藤 文則（登米地区）
〈研修委員〉 齋藤 仁（仙南地区） 佐藤 弘子（栗原地区）
遠藤 至（仙台地区） 三浦 徳義（栗原地区）
千葉 博昭（大崎地区） 小山 憲一（気仙沼・本吉地区）



少年の主張 宮城県大会 結果報告



2年ぶりとなる少年の主張宮城県大会を、10月1日に宮城県庁で開催しました。新型コロナウイルス感染症の拡大により、無観客での開催でしたが、地区大会の代表となった14人の中学生は、毎日の生活や体験を通して感じていることなどをしっかりとまとめ、堂々とした主張を発表してくれました。



審査結果

宮城県知事賞

私と僕と、そして「自分」

大郷町立大郷中学校 3年 山内 莉羅

青少年のための宮城県民会議会長賞

コロナ禍で気づいた大切なこと

仙台市立幸町中学校 3年 鈴木 心晴

人と音楽の力、未来へ向かって

南三陸町立志津川中学校 3年 佐藤 聖奈



優良賞

(県大会出場者全員が受賞・発表順)

私の弟	仙台市立八軒中学校	3年	久保田菜々子
何者にだってなれる	山元町立山元中学校	3年	藤川 瑞己
夢、目標、実現	石巻市立万石浦中学校	3年	宮林 咲希
共に生きる未来へ	仙台市立中田中学校	3年	若木 千鶴
心の傷	仙台市立台原中学校	3年	淀野 愛琳
誰もそんな決めてない	富谷市立東向陽台中学校	3年	金川 仁南
挑戦ー新しい自分と出会うため	白石市立東中学校	3年	白石 朱那
私にできること	仙台市立根白石中学校	3年	庄司菜々花
私の好きなこと	登米市立米山中学校	2年	伊藤 葵
僕の「親孝行」	大崎市立鹿島台中学校	2年	横田 侑海
ふみ出す勇気を形にして	栗原市立築館中学校	3年	榎本 花音

県知事賞を受賞した山内さんは、北海道・東北ブロック代表として、全国大会に動画出場（web開催：11月1日～30日）し、奨励賞を受賞しました。

令和3年度宮城県知事賞受賞作品（全国大会出場 奨励賞受賞）

私と僕と、そして「自分」

大郷町立大郷中学校 3年 山内 莉羅



「男性・女性、どちらかの性別に○を付けてください」

そんな何気ないアンケートの質問に戸惑う自分がありました。すぐに○をつけることはできませんでした。こういう質問に答えられない自分がそこにいたからです。なぜなら、自分の性別は男性でも女性でもないからです。

「お前って、男みたいだよな。」

同級生にそう言われたのは、小学五年生のとき。自分の性別に違和感を覚え始めた頃でした。それまで性別なんて意識しておらず、男性と女性しか知らなかったもので、ずっと心に霧がかかったようにもやもやしていました。

「性同一性障害」…小学六年生の時に講演会で話された中に出てきた言葉です。驚いたのと同時に、それまでもやもやしていた自分の気持ちの意味が分かったような感覚でした。講演を聞いていく中で、自分も当てはまるのではないかと思いはじめました。

しかし、言葉の意味は分かっていても心自体は曇ったままでした。

中学生になり、制服を着ることになりました。男女の差がある制服、授業、そして名前と呼ばれ方…。男女で分かれる学校生活が嫌でたまらない自分に出会いました。女である自分が嫌で、鏡を見ると辛くて制服も着ることができず、登校できなくなりました。どうして自分の身長は伸びないのだろう、どうして声は低くならないのだろう。毎日毎日自分に問いかけては涙を流す日々が続きました。

冬の冷たい風が感じられるようになったある日のこと。「Xジェンダー男女以外の性のあり方」というサイトを見つけました。驚きました。そのサイトとの出会いは、性別は男と女の二つが存在しないと思っていた自分の気持ちを大きく揺さぶるものとなったのです。女ではない自分は男だと思い込んでいたのが、このサイトによ

ると、「Xジェンダー」すなわち、色々な性があることがわかりました。男女の間である中性、男女のどちらもある両性、性別自体がない無性。そして、時と場合によって性別が変化する不定性があります。「不定性、ジェンダーフルイド…」そう言葉に出した時、悩んでいた自分の心が救われたような気分でした。心にかかっていた霧が晴れていく感じがしました。そのことを知ってから悩むことも少なくなり、日々変化していく自分の性別を楽しむことができるようになったのです。自分は心の性別によって一人称を変えることにしました。男よりの時には「僕」、女よりの時には「私」、どちらでもない時には「自分」。僕も私も自分も、どれも大切な自分の一部になりました。

そして、中学二年生になる頃、母と先生方の協力のおかげで制服もスカートからスラックスへ変えることができました。新しい自分に生まれ変わったような気分で、少しずつ登校できる日が増えていきました。

「制服変えたんだ、カッコいい！」

同級生に言われたその言葉に励まされました。「自分は自分のままでいい」、そう思えるようになりました。最初は自分を苦しめていた性別が、今では大切な自分の一部であり、アイデンティティです。

皆さんから見たら私はおかしいでしょうか。この性別は僕の思い込みでしょうか。そんなことはありません。自分はこの性別に誇りを持っています。自分の個性でもあります。きっとこの世の中、自分以外にも性別について、悩んでいる人がいると思います。

だから、自分は多くの人に伝えたい。性別を楽しんでいいこと、自分の性別は自分で決めていいこと、必要以上に悩まなくてもいいこと、そして決して一人ではないということ。なぜなら、自分の性別は自分のものなのだから。

※発表の動画（優良賞はダイジェスト版を、県知事賞・県民会議会長賞は全編）と発表作文は、青少年のための宮城県民会議のホームページに掲載しています。右の二次元コードを読み取ってご覧ください。



コロナ禍で気づいた大切なこと

仙台市立幸町中学校 3年 ^{すずき}鈴木 ^{こはる}心晴



皆さんは、多数決で何かを決める際、賛成が多そうな意見を選んで手を挙げたことはありませんか？また、意見を求められた時に、周りの空気を読んで、無難な回答をしたことはありませんか？

どちらも、これまでの私がよくしていたことです。出した答えが笑われないよう、周りから浮かないよう、とっさに自分の意見を抑えることもありました。もちろん、その時後ろめたさがない訳ではありません。それでも、つい、多数派になった時に得られる安心感や優越感の方を優先してきたのです。

しかし、今年の春、そんな私の考え方を揺るがすある出来事がありました。そのきっかけは祖母の一言でした。

「おばあちゃんね、パッチワークのサークルをしばらく休むことにしたの。」

裁縫が何よりも好きな祖母は、仲間と集まってバッグや小物を作る、週に一度のその時間を本当に楽しみにしていました。しかしこの春、新型コロナウイルスのワクチン接種が始まったのを受けて、今後はみんなで接種を済ませてから集まるうということになったそうです。祖母は、過去にアナフィラキシーショックを起こした経験があり、かかりつけ医と相談して、接種を控えると決めた矢先のことでした。

「もちろん、周りが不安な気持ちも分かるから、仕方ないね。」

祖母は、私にあっさりと言ったように見えました。しかし後で母から聞いたところ、ワクチンを受けない選択をしたことを周りに話した途端、なぜ受けないのかと責められ、一斉に冷たくされて、そこから関係がギクシャクしてしまい、自ら身を引かざるを得なかったことが分かりました。

以前から、私達の社会には、多数派こそが正義で、そこから外れることはあたかも悪かのような価値観があったように思います。特に、新型コロナウイルスの流行が始まってからは、それらの風潮が「〇〇警察」と名付けられ、厳しさを増すばかりです。

例えば、感染者の名前や自宅を特定し、その勤務先や学校へも誹

謗中傷をする「コロナ警察」。さらに、自粛の要請に応じない個人や店などに対し、一方的に警告や嫌がらせを行う「自粛警察」も現れ、とうとう「ワクチン警察」という言葉まで聞かれ始めました。

私自身も、感染者に対し、いったいどんな行動をしていたのだ、周りに迷惑をかけないで、という思いを抱くことがありました。ワクチンだって、自分と社会のために打つのが当たり前で正しいと思っていました。振り返ると、その「警察」の立場で物事を見ることが多かったように感じます。

しかし、その行動が過激さを増すにつれて、多数派の立場を利用したそれらの「警察」がしていることは、必ずしも正しいことではないと気が付いたのです。祖母のことがきっかけで、私は初めてもう一方の立場を身近に感じ、自分の浅はかさを見直すことができました。人々に不安が募るコロナ禍においては、どうしても同調圧力が高まりがちです。しかし、そのような今だからこそ、一度立ち止まって、冷静に、もう一方の相手に思いを馳せる努力が必要だと思ふようになりました。どんなに少数だとしても、その人の考えや判断は尊重されなければなりません。まして、その人自身を否定するようなことがあってはならないと思います。そこには、様々な理由ややむを得ない事情があるはずで、何より、その人が一番孤独で、不安を抱えているかもしれないのです。

私達には今後も、学校や地域の中で、意見を出し合う多くの機会があるでしょう。多様性が認められるべきこの社会に、数や雰囲気だけで決めることのできる正義感や優劣はありません。これからは、自分が多数派かどうかにかかわらず、互いの意見に耳を傾ける優しさを忘れずにいたいと思います。もし自分と相手との間に、多数と少数、つまり有利と不利の関係があると気づいた時には、なおさら丁寧に対話やコミュニケーションを重ね、関係性を築いていくことを心がけようと思います。

私には、どんな場面でも恐れず自信をもって、自分の言葉で考えを伝えるという今後の大きな目標もできました。

互いを認める姿勢が広がって、いつか誰もが当たり前大切にされる。そんな日が来ることを信じています。

人と音楽の力、未来へ向かって

南三陸町立志津川中学校 3年 ^{さとう}佐藤 ^{せな}聖奈



2011年3月11日。あの日のことを今でも鮮明に覚えている。当時四歳の私は祖父母と一緒に沿岸部にある自宅にいた。大きな揺れが続く中、家の外を見ると高く黒い津波が迫っていた。急いで二階に上がり、私たちは手と手を強く握りしめたが、津波は間もなく私たちを飲み込んだ。祖父母とともに、三人で九死に一生を得たが、津波に飲まれる中で祖母が言った「諦めるな！三人で生きて帰る！」という言葉は今でも耳から離れない。

津波が引いてからは自力で家から脱出し、高台にいた人に助けられ、家族とも再会することができた。しかし、自宅は流されてしまったため、近くにある高校と高台にある母の実家を行き来しつつの避難生活が始まった。自宅での生活とは違い、不自由に思うことも多くあったが、家族と肩を寄せ合いながらなんとか生活していた。そんな私たちの生活を支え、励まそうと、県外からも様々な人がやって来た。その中でも印象に残っているのは、自衛隊沖繩部隊の方々だ。彼らは高校にある避難所に拠点を置き、町の復旧作業にあたっていたが、あるとき避難所で演奏会を開いてくれた。自衛隊の方々には弦が三本張ってある不思議な楽器を奏でていた。三線という楽器らしい。奏でられる軽快なリズムと温かい音色。私は一気に演奏に引き込まれた。演奏に真剣に聞き入り、その姿を目に焼き付けた。ふと周りを見ると、大人たちは涙を流していた。私も周りの大人たちも津波によって跡形もなくなった町を目の当たりにし、心が冷え切っていた。しかし、三線の音色を聞くうちに、勇気と希望が湧き上がってくるのを感じた。私にもできることがあるかもしれない。すっかり三線の音色に魅了された私は、自衛隊の方々に三線の演奏や沖縄の歌を習った。そして、「サンシンズジュニア」という地元の高校生から小学校入学前の子供たちまで、幅広い年齢が所属する音楽グ

ループを結成した。私も演奏で人々に勇気や希望を届けたい。その一心で練習に励んだ。震災から一年半が経過した2012年8月には那覇に行き、あの時お世話になった自衛隊沖繩部隊の方々への感謝の気持ちを込めて演奏を行った。また、震災直後にたくさんの支援をいただいた埼玉県との団体のところへ行き、演奏を行うこともあった。今年は新型コロナウイルス感染症の影響もあり、埼玉県へ直接行くことはかなわなかったが、三月には演奏した動画を届けた。今の私たちの姿を通して、勇気を少しでも与えられたらうれしいと思っている。

震災から十年が経った。皆さんにとって、震災からの十年はどのようなものだったろうか。私にとってのこの十年は、人と人とのつながりの大切さと、音楽の持つ大きな力を感じさせるものであったと考える。全てを失い、絶望の淵に立たされた十年前。全国からの支援がなければ生きていけなかった。そんな中で、人と人がつながり、手と手を取り合って再び立ち上がった姿は絶対に忘れてはならない。そして、音楽は人々の心を開き、心と心をつなぎ、勇気や希望を与える。これらのことは、私がこれからも語り継いでいかなくてはならないと考える。

現在、日本は新型コロナウイルス感染症という未知の脅威と戦っている。我慢が強いられ、終わりの見えない不安な日々を過ごしている。私は多少の違いはあるが、被災した当時と似たような状況であると感じている。しかし、人々の様子を見ると、医療従事者の方々や感染者に対する差別が起こっている。私はこのような状況を悲しく思うとともに、この困難を乗り越えるには人々が手と手を取り合い、協力して立ち向かうことが必要だと考える。

私は、これからも三線が続けるつもりだ。三線の軽快なリズムと温かい音色が人々の心をつなぎ、勇気や希望を届けると信じて。

青少年健全育成 みやぎ県民のつどい

「みやぎ教育月間」協賛 期日：令和3年11月12日(金) 場所：仙台銀行ホール・イズミティ21

2年ぶりの開催となった県民のつどいは、猛威を振り続けた新型コロナウイルス感染症が小康状態となった時期と重なり、152名もの参加者があり、会場は立冬を過ぎたことも忘れるほどの熱気に包まれました。

つどいでは、青少年健全育成に尽力された方々等への青少年のための宮城県民会議会長表彰、並びに「家庭の日」絵画・ポスター優秀作品の表彰や、少年の主張宮城県大会で県知事賞、県民会議会長賞受賞者2名の発表もありました。

また、基調講演では、今年度の重点目標でもある地域民同士の支え合いをテーマとした、「地域民で支え合う青少年の健全育成」—教育の現状を踏まえて— と題し、宮城教育大学特任教授の庄子修氏にご講演いただきました。

基調講演

演題：「地域民で支え合う青少年の健全育成」—教育の現状を踏まえて—



講師：宮城教育大学 特任教授 庄子 修 氏

〈プロフィール〉

旧河南町立北村中学校を振り出しに、国公立の小・中学校や教育行政勤務を経験。仙台市の教育指導課長時代には、キャリア教育に関わる「仙台自分づくり教育」の創設や「仙台市確かな学力育成プラン」の策定にかかわられ、学校と地域との連携や学力向上といった、総合的な施策に取り組まれた。現在お勤めの大学でも、「探究心の育成」と「人間関係づくり」を目指した新たな教育的アプローチの実践・研究を続けている。

今回の講演では、庄子先生の長年に亘る教育現場での経験を基に、

- ① いじめや不登校など「子どもを取り巻く諸課題」
- ② 主として学習意欲に関わる「子どもを伸ばす学力向上策」
- ③ 褒め方のコツや叱り方のコツなど「子どもとの向き合い方」
- ④ 自分で決めさせる、感謝の気持ちを持たせるなど「子どもの将来のための留意点」

といった教育の諸課題とその対応策について、地域民や保護者の立場からどうあるべきか、具体的なお話をいただきました。

コロナ禍のため講演時間の短縮をお願いしましたが、先生のお人柄があらわれたユーモア、心惹かれる話し方に終始引き込まれた講演となりました。



1-(4) 不登校への対策

- ① 原因を探ることよりも、改善の手立てを考える。
- ② 保護者も悩んでいる。信頼関係を築き、共に考える。
- ③ 本人の気持ちをそのまま受け止め、寄り添う。
- ④ 「甘やかしはダメ」との考え方を、ひとまず封印する。
- ⑤ 周囲の理解（ワースト1位？）
- ⑥ 多くの体験を積ませ、**自信**と**自己肯定感**を持たせる。
(やれる事からやらせてみる。ハードルを下げ、達成感を。)
- ⑦ 新たな環境、新たな出会いが突破口となることもある。
- ⑧ 多くの人がチームとして関わる。(サルベージ船)
- ⑨ 規則正しい生活を。(入院療法と服薬?)

12

2 子どもを伸ばす学力向上策

- (1) 「確かな学力」の3要素とは？
- (2) 2つある勉強の過程、そして塾との関係
- (3) 社会で求められる応用力
- (4) 日本の子どもの一番の課題は、学習意欲
- (5) 小学生と中学生では異なる学習意欲の姿
- (6) 無視できない生活のスタイル
- (7) キャリア教育の重要性 → 職場体験
- (8) 職場体験に隠れていた驚きの効用
- (9) 地域との関わりの中で育つ子どもたち
- (10) 「学力日本一」の秋田県からの情報

15

3-(4) 褒め方のコツ

- ① 確かな**事実**を褒める。
 - ② できれば、他人との**比較**なしで褒める。
 - ③ 結果だけでなく、過程での**努力の具体**を褒める。
 - ④ **みんなの前**で褒める。
 - ⑤ 誰かに**報告する形**で褒める。
 - ⑥ **第三者を介して**褒める。
 - ⑦ 子どもの話を**復唱**する中で褒める。
 - ⑧ 具体的な**褒め言葉**を蓄えておく。
- 例・頑張ったね ・見事だね ・凄だね ・感激した ・驚いたよ
・立派だったよ ・素晴らしいね ・お母さんも嬉しいよ
・きつとおばあちゃんも喜ぶね ・今日は我が家の記念日になるね
・しっかりしてるね ・素敵だね ・優しいね ・〇〇さんも褒めてたよ

32

4 子ども将来のために

- (1) 自分で決めさせる。
- (2) 簡単にはやめさせない。(区切りのよい所を見つけさせる)
- (3) **失敗をプラス**に転化させる。
- (4) 多くの**人と接する場**を作る。特に少し年上の人の存在を。
- (5) 多くの**本**に出会わせる。
- (6) 自分の**良さや強み**を**自覚**させる。(自己肯定感の醸成)
- (7) 感謝の気持ちを持たせる。
- (8) 基本的な生活習慣と学習習慣を身に付けさせる。
- (9) 「なぜ？」という**探究心**と**将来への意識**が学習意欲となる。
- (10) 教養を身に付けさせ、感性を磨く。

36

会長表彰

●青少年健全育成成功労者（個人）－順不同/市町は活動地域－

市町村	氏名	市町村	氏名
塩竈市	横江 政洋 様	大崎市	千田 清憲 様
多賀城市	伊藤 和彦 様	大崎市	羽田 昌勝 様
名取市	桑嶋 徹 様	登米市	佐藤 ヒサ子 様
名取市	佐々木 泉 様	登米市	佐々木 忠雄 様
女川町	和泉 進一 様	登米市	鈴木 正俊 様
気仙沼市	小山 茂樹 様		



－青少年のための宮城県民会議会長表彰受賞者－

●青少年健全育成成功労者（団体）

東松島市しいの実会（特別支援学級後援団体）様

■設 立/昭和49年

■代表者名/本田 和彦



- 矢本第二中学校区の小中学校に在籍する特別支援学級児童生徒のために、地域で募金活動を行い、教育活動の幅を広げ、環境を整えている。
- 入学等を祝う会や各種お楽しみ会をとおして、異年齢の子どもたちが人と関わることを学んでいる。
- 和太鼓やダンスなどの体験、表現活動により、子どもたちが、自分を表現する喜びを知ったり、特性を生かしたりしながら育っている。

●在学青少年社会参加活動善行者（団体）

東和町ジュニア・リーダー・サークル「クルッくる」様

■設 立/昭和52年

■代表者名/高井 さき



- 登米市東和町内の小学生を対象とした「夏休み防災キャンプ」や「冬休みクリスマスキャンプ」、「東三校合同花山合宿」などでの活動を行っている。
- また、「東和秋祭り」などの地区コミュニティ事業等にも参加協力するなど、積極的にボランティア活動を行っている。

全国青少年育成県民会議連合会『青少年指導者等顕彰』受賞

県民会議常任委員 宍戸 宏至 様（青少年のための大崎市民岩出山会議常務理事）

全国22道県が加盟する全国青少年育成県民会議連合会より、多年に亘る青少年健全育成指導者としての地域活動への功績が認められ、顕彰表彰が授与されました。

毎月第3日曜日は

「家庭の日」

居心地の悪い場所になってしまうといった、弊害が指摘されています。改めて、「居場所」としての「家庭」の地位を保つため、「家庭の力」を高めるため、「家庭の日」への取り組みを見直してみたいものです。

県民会議では、「家庭の日」絵画ポスター・川柳の作品展示や啓発物品の作成により、「家庭の日」のPRを行っています。令和3年度も、「ティッシュ」「マスク」のほか、「三つ折りチラシ」や「軍手」なども作成し、PRに活用しました。



軍手も早速使ってもらえました



志津川自然の家での「家庭の日」PR

12月と2月の第3日曜日に実施された志津川自然の家での体験事業に出向き、参加者に「家庭の日」や「ノーメディアデー」のPRをしました。

参加の皆さんは、展示した「家庭の日」優秀作品に見入ったり、配付したチラシに興味深げに目を通したり、「家庭の日」への関心をもってもらうことができました。

インターネットのはじめの一步!! 動画作りしました

インターネットって、便利楽しい!!

でも?!

はじめにや犯罪被害に?!

だからインターネットの安全安心利用が大切!!

フィルタリングを設定しよう!

正しい使い方を知らう!

インターネットとの関わり方や、家庭のルールづくりなど、青少年を守るために知ってほしい大切なポイントについて解説しています。(5分)

ネットのトラブルに巻き込まれないようにインターネットと付き合う大切なポイントについて解説しています。(4分)

青少年の皆さんへ

保護者の皆さんへ

動画を見るぞ! 青少年のインターネット安全安心利用の動画はコチラから

青少年健全育成条例の保護対象年齢の拡大等

インターネットの普及により、SNS等を介して犯罪に巻き込まれる青少年が年々増えています。このため、青少年健全育成条例を一部改正し、これまで「6歳以上18歳未満」としていた青少年の定義の下限年齢を4月から撤廃します。

この改正により、6歳未満の幼児も、インターネット上の有害情報の閲覧制限や興行場等への深夜入場の禁止など、青少年の健全な育成を阻害する行為の規制が適用され、保護対象となります。

詳しくは、県共同参画社会推進課のホームページを御覧ください。

インターネット安全安心利用の動画を作りました!

青少年が、インターネットのトラブルに巻き込まれないために、知ってほしいポイントをまとめた動画(YouTube)を作成しました。

お気軽に様々な機会でご覧ください。また、学校の授業や保護者の方の勉強会などで御活用ください。

動画はコチラから

青少年の皆さんへ
(4分)



保護者の皆さんへ
(5分)



宮城県・宮城県人権啓発活動ネットワーク協議会

問合せ先: 宮城県 環境生活部 共同参画社会推進課 青少年育成班
TEL: 022-211-2577 FAX: 022-211-2392 E-mail: senyo@pref.miyagi.lg.jp

インターネット安全安心利用啓発ポスター